



第25回中学生大使10人が、3月12日から11日間の日程で、姉妹都市の米国オレゴン州フードリバーを訪問してきました。

生徒たちは国や言葉の違いを簡単に乗り越えて、はるか1万キロ離れた大地で友情をはぐくみ、多くの大切なことを学ぶとともに、忘れられないたくさんの思い出を作りました。今回参加した中学生大使の皆さんから体験記が届きましたのでご紹介します。

第25回 中学生大使派遣事業

# フードリバー訪問記

2009/3/12 ~ 3/22



△ルイス&クラーク大学にて木立先生のお話を聞く

一生懸命勉強した英語が通じたときとてもうれしかったです。こんな自分の英語でもちゃんと会話できることに感動しました。  
アメリカに行き、たくさんを知り、驚き、楽しみながら勉強することができました。またいつかもう一度フードリバーへ行きたいと思いました。



国境を越えて


長内 沙織



フードリバーでの思い出

一戸 萌里

これから、連絡を取って交流を深めていきます。



わたしは初めて国境を越え「アメリカ」という日本とはまったく別の国へ行きました。やはり行く前は、不安もあつて緊張していたのですが、フードリバーの方のおかげで楽しいものとなりました。  
初めて長時間飛行機に乗り、日付変更線を越え、時差ぼけしながら到着したアメリカ。初めて見る光景に興奮して騒いだことを覚えています。  
アメリカ(フードリバー)の人たちはとても明るく、優しくわたしたちに接してくれました。  
現地(フードリバー)の人は、日本から持ってきたそのめんをわたしが作ってあげました。はしの持ち方をみんなに教えてあげると、かなり大変そうにして食べていました。  
わたしがホームステイをして思い出に残っていることが一つあります。それは誕生日を祝ってもらったことです。ママ、ライムがあるからソファに座ってくださいとお母さんに言われワクワクしながら座っていると、お母さんと子どもたちがハッピーバースデーの歌を歌いながらケーキを持って来てくれました。そしてそのケーキを消すとプレゼントを持って来てくれて、あまりにうれしくて涙がとまりませんでした。  
わたしは初めてアメリカへ行って不安な気持ちでいっぱいでした。でもこんなに良い家族に出会えました。つらいときもあったけど、周りのみんなに支えられて楽しく過ごすことができました。

### 中学生大使フッドリバー体験記



フッドリバーに行つて  
田澤 未咲

わたしは三月十二日、不安と楽しみ  
の両方を持ちながらフッドリバーに向  
かいました。バスや飛行機の中など  
はホストファミリーのことなどいろ  
ろ考えていました。

ホストファミリーとの対面ときは  
少し緊張したけどすぐに打ち解けるこ  
とができました。会話が全部英語なの  
で、最初は全く会話の内容が理解でき  
ませんでしたが、だんだん分かるよう  
になりました。家は山の中にあつて、  
家も庭も広くて驚きました。ホストフ  
ァミリーのママさん・パパさんはとて  
も優しく、ミケイラ・ケイラはとて  
もおもしろくて楽しかったです。

アメリカの学校では、みんなおもしろ  
くて、ノリもよかったです。たくさん  
の写真をとりました。英語もあまり  
話せないわたしに、みんなとど  
ん話しかけてくれました。授業の内容  
はわたしたちが中二で習う内容ばかり  
で、理解できませんでした。帰るとき  
もたくさん話しかけてくれたし、「ハグ  
してください」と言う人もいました。

ホストファミリーの家では、ミケイ  
ラたちに英語をたくさん教えてもら  
いました。ママさん・パパさんともた  
くさん話をして毎日笑いが絶えなくて  
とても仲良くなれました。

最後のお別れの日、わたしたちは寂  
しさのあまり号泣してしまいました。  
ホストファミリーの方たちは最後まで  
優しくわたしたちをなぐさめてくれま  
した。

わたしはこの体験を通してたくさん  
の人に外国のことなどを伝えていき  
たいと思います。そしてこれからも仲  
良くなったホストファミリーの方たち  
と手紙やメールでやりとりしたいとおも



### 世界一の友



竹浪 恭平

なぜ楽しい時間はあつたという間にす  
ぎていくのだろうか。長いよつとで  
も短く感じられたあの夢のような十  
日間、優しく接してくれたホストフ  
ァミリーの人たち。忘れられない楽しい  
日々の数々でした。

初めはうまくやっていけるかどうか  
心配でしたがすぐにそんな心配は消え  
ました。なぜならグラントに出会った  
からです。グラントは僕と同じ二年生  
で、明るく元気な男子でした。おかげ  
で生活にすぐとけ込んで、全く心配が  
なくなりました。

滞在した十日間の中で、特に心に残  
った出来事が二つあります。

います。たくさんの人への感謝の気持  
ちを忘れず、このすばらしい経験を  
ただ「楽しかった」で終わらせないよ  
うに、これから大きく生かしていきた  
いと思っています。

### すぐかった外国



時苗 志保

アメリカではたくさんさんの出来事があ  
りました。

ポートランドまで行く飛行機の時間  
がとて長く感じました。到着すると  
昼は本場のマックを食べ、ホストファミ  
リーに会いました。第一印象は「優し  
い」で、お父さんのヒルさん、お母  
さんのリントさん、子どもはアリン  
というとても優しいホストファミ  
リーでした。その夜はパスタをこち  
うになりました。二日目はアリンが  
通う中学校に行きましたが、わたした  
ちの勉強と違いとても難しかったです。  
その後プールへ行きみんな楽しんで  
後、家に帰ると夕食にタコスを用意し  
てくれていました。すぐおもしろい  
です。三日目は土曜日でした。この  
日は家族と出かけて、昼はレストラン  
で大きなチーズバーガーを食べ、大き  
なスーパードにも行きました。夜は演劇  
に連れ行つてもらったけど意味が分  
からなかったのが残念です。四日目は  
雨が降っていましたが、他のホストフ  
ァミリーの皆さんとハイキングに行き



△レイ・ヤスイ氏の墓前にて



フッドリバーに行つて  
成田 和仁

僕たちは、三月十二日に日本を出発  
しました。飛行機で八時間近くかけて  
フッドリバーに行きました。

フッドリバーに着き、僕たちはルイ  
ス&クラーク大学を見学しました。ル  
イス&クラーク大学では、板柳町出身  
で名誉教授の木立随先生に案内して  
もらい大学を見学しました。木立先生  
にはためになる話をたくさんしてもら  
いとても感謝しています。

大学を見学した後、マルトノマの滝  
に行きました。その滝は約百メートル  
あり、とても美しく、とても雄大な滝  
でした。僕たちはその後、それぞれの  
ホストファミリーの家に分かれていき  
ました。

ホストファミリーの人はとても優し  
く、グラントという少年とほ最初あま  
り話せなかったけど、すぐに打ちとけ  
ることができました。

翌日は、フッドリバー中学校に行き  
ました。中学校にはいろいろな人種  
の人がいて、生徒たちがお菓子を食べた  
り、話しながらのんびりと勉強してい  
ることにとても驚きました。

三月十九日、僕たちはさよならパ  
ーティーに出席しました。僕たちは「ぶ  
るさ」と歌ったり、食事をして楽し  
みました。僕たちは九日間フッドリバ  
ーで過ごしました。この九日間はとて  
もおもしろく外国の文化を学ぶことが  
できました。フッドリバーで学んだこ  
とを忘れずにといていきます。



中学生大使フットリバー体験記



千葉 千愛

フットリバーを訪問して

フットリバーの訪問は楽しみの反面「うまくやらないかな」という不安もたくさんありました。

フットリバーに行ってきた皆さんの思い出ができましたが、中でも一番の思い出はホストファミリーと過ごした時間です。

ホストファミリーのジョジョとジェシーは仲の良い双子でした。一緒に卓球やホッケーなどをして遊びました。中でも折り紙は折り方を教えると真剣に折っていて、教えてあげると、とてもうれしく思いました。

そのほか学校訪問では、ホストファミリーの人と一緒に授業を受けたりしました。クラスの人たちもたくさん話しかけてくれたので、うれしかったです。でも、わたしの話す英語が通じなかったときは少しショックでした。

最後にホームステイを受け入れてくれた家族、そしてフットリバーに行かせてくれた人たちにとても感謝しています。この体験はわたしにとって、とても貴重なものとなりました。



一戸 皓樹

十一日間の糧しほり

三月十一日から二十二日までの十一日間は、今までの人生の中でもっとも貴重な体験をした日々でした。日本語を使わずすべて英語で生活することは僕にとって自分の力を確かめる場として最適だったと思います。

フットリバーでは心に残る思い出が山ほどできました。中でもそのうちの五つを紹介します。

一つ目は大自然です。フットリバーに向かう途中には、コロンビア川、マルトノマの滝がありました。コロンビア川は若木川の数倍もの川幅があり、豊かな流れの川でした。マルトノマの滝は、オレゴン州一落差のある滝です。そこには石橋がかかっており広大で素晴らしい眺めが広がっていました。自由行動の日にはホストファミリーとともに頂上まで登り、記念に頂上の水を飲んでみました。工業国というイメージのあるアメリカですが、雄大な自然があることを目にしてとても感動しました。

二つ目は学校です。一言で言えば「自由」。制服はなく、学級のようなものもありません。個人の机もなく大きいテーブルが集まるという形でした。昼休みになると生徒は活発に体育館で運動していました。小学校を訪問したときもバスケットボールに誘われ楽しみました。本場だけあって公園にはバスケットリングが設置されていることは、バスケット部の僕にとってとてもうれしい光景でした。日本よりアメリカの方が男女ともに活動的だと思ひ、僕たちもいろいろなことに挑戦すべきだと考えさせられました。

三つ目は、優しい人柄です。会う人みんな「Hello!」や「こんにちは」と



気軽に声をかけてくれました。また「Thank you!」「You are welcome!」も多く耳にしました。買い物の際は「Have a good day!」(良い一日を)と声をかけてくれます。とてもうれしかったです。他人に対して優しく接することは難しいことですが、とても大事なことだと思ひます。それを当たり前のようにしていただき、フットリバー市民やお世話になった人にはとても感謝しています。他人に対し、優しくなることを改めて強く思ひました。

四つ目は食べ物です。ファーストフード店などでは、サイズを注文すると、日本ではいう2L、3Lもの量が出てきます。一度、サイズの飲み物を注文してみましたが、やはり飲み物だけで満腹になるほど多かったです。また、食事中驚いたことは、ある程度手を使って食べていることです。日本の食器を使うと、ほとんどのものをつかむことができます。でもフォークではさうはいきません。そう考えると仕方がないのかな、と思ひました。はしの文化の良さを感じることができました。

五つ目はスーパーマーケットです。日本と違うところが二つありました。一つ目は、やたらと試食が多いことです。

店内を一周するだけでお腹が満たされます。二つ目は、会計前に飲食してもよいことです。日本ではあまりないため「ok ok」と言われても、少し戸惑っていました。本当に文化やマナーの違いは興味深いものだと感じました。

今回の訪問は、これからの人生を生きていく上でとても大きな糧になったと思ひます。この訪問で学んだことを一つでも日常生活に活用できたらなあと思ひます。

僕にとって、国際感覚を身につけることもとても良い経験、体験でした。これからも、後輩たちのために、鶴田町とフットリバー市の親善訪問などの交流が続くことを願ひます。

大事な思い出



一戸 優希

わたしはフットリバーに行った初日からホームシックになりました。全英語が通じない、ホームステイ先の人とはコミュニケーションがとれない、

一日目、二日目は本当につらかったです。一緒に泊まった美咲さんと夜に語り合った日もありました。今思うと美咲さんがいなければ本当に大変だったと思ひます。このフットリバーで友情が深まりました。美咲さんありがとう。でも、四日目くらいからは、いつの間にか、分厚かった言葉の壁も乗り越えられていました。わたしたちが分かちあやすいように、ホームステイ先の方も紙に書いてくれたり、簡単な単語を並べてくれたり、本当に親切な方たちでした。わたしにとって大切な第二の家族です。

わたしが、一番楽しかったのは、中学校訪問です。最初はトキドキだったけど、あちらから気軽に話かけてくれたのでとてもうれしかったです。



フットリバーに行った先輩から、たくさん一緒に写真を撮るといいと言われていたので、それでコミュニケーションをとりました。やっぱり笑顔でいることが一番大切だと思ひます。笑顔というものは相手に与える印象も良くなる、自分も楽しくなるなあと改めて思ひました。

わたしは、このフットリバーに行くというところで、まず中野町長さんをはじめ、町の皆さん、お金を出してくれたお父さん・お母さん、「頑張って」と言ってくれた先生、友達とともにフットリバーで過ごした澤田先生、熊谷さん、九人の仲間、フットリバーで出会った方々、本当に感謝しています。一生忘れられない良い思い出です。ぜひ、もう一度行きたいです。

**第25回鶴田町中学生大使 フットリバー市親善訪問団**

長内沙織	一戸萌里
田澤美咲	竹浪恭平
蒔苗志保	成田和仁
千葉千愛	一戸皓樹
一戸優希	以上9人
引率教師	澤田多香子
添乗員	熊谷直樹